

[成果情報名] 損益計算書を活用した経営評価ソフトの開発

[要 約] 損益計算書の収支を入力することで、簡易に経営評価ができるソフトを開発した。

[キーワード] 経営評価ソフト、損益計算書、経営指導

[担 当] 静岡農林技研・経営・生産システム科

[連絡先] 電話 0538-36-1551、電子メール agrikeiei@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 経営

[分類] 技術・普及

---

[背景・ねらい]

J A、県の農業技術指導員を対象とした、損益計算書を用いて、農業者の複合経営を  
作目別に簡易に評価するソフトを開発する。

[成果の内容・特徴]

- 1 開発した経営評価ソフトは、4つのステップで構成され、経営全体の売上、経費の  
評価、作目別の売上、経費の評価、経営試算、他の農業者との比較が利用できる（表  
1）。
- 2 ステップ1では、損益計算書の収支を入力することで、売上、経費がグラフ化でき  
る（図1）。また経費は、原材料費、諸材料費等に分類した経費別分析が可能である  
（図2）。
- 3 ステップ2では、複合経営における作目別の売上、面積、経営指標（10a 当りの売上、  
各経費）を入力することで、作目別に売上、経費がグラフ化できる（図3）。ただし、  
複合経営における作目別の経費は、経営指標（県技術原単位等）や売上比を元に各経  
費を案分した推定値である。
- 4 ステップ3では、2つの経営試算を行う。1つは、各作目の目標とする所得を入力  
することで、目標所得の到達に必要な単収や面積が試算できる（図4）。もう1つは、  
各作目の目標とする単収や面積を入力することで、所得がどの程度向上するか試算で  
きる。
- 5 ステップ4では、他の農業者の経営収支を入力することで、10a 当りの売上、経費を  
比較できる（図5）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本ソフトは Microsoft Office Excel にて作成されており、Excel2010 以降のバージョン  
に対応している。また、グラフの表示範囲の指定のみマクロ機能を使用するが、他は  
マクロ機能を使わず、関数による計算を主体に構成されている。
- 2 本ソフトの利用は J A、県の農業技術指導員を対象とし、申請書を提出することで  
利用が可能である。

[具体的データ]

表1 経営評価ソフトの構成

段階	入力内容	機能
設定	氏名、変動費・固定費	—
ステップ1	損益計算書	経営全体の売上、経費の評価
ステップ2	作目別の経営指標	作目別売上、経費の評価
ステップ3	所得、規模、単収の目標値	経営試算
ステップ4	他の農業者の経営収支	他の農業者との比較

※1ソフトで5件の損益計算書データが入力可能

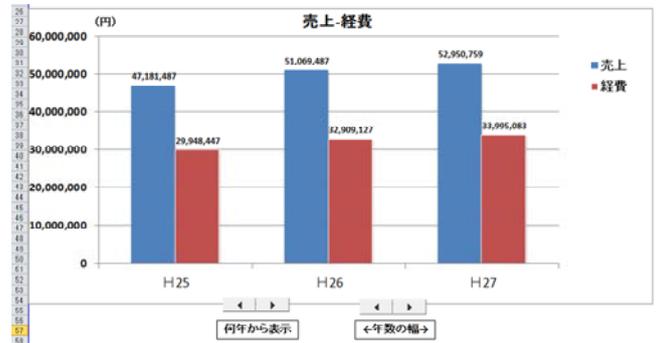


図1 経営全体の売上、経費の評価 (ステップ1)

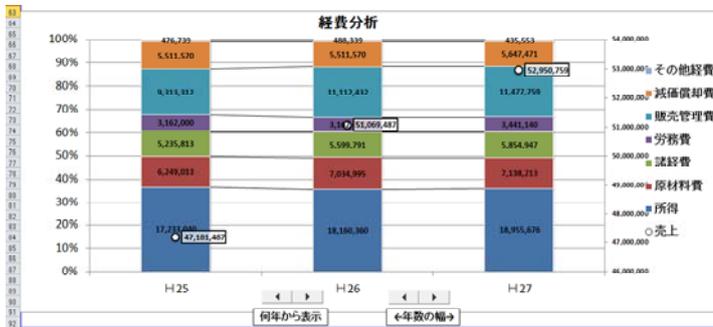


図2 経費分析 (ステップ1)

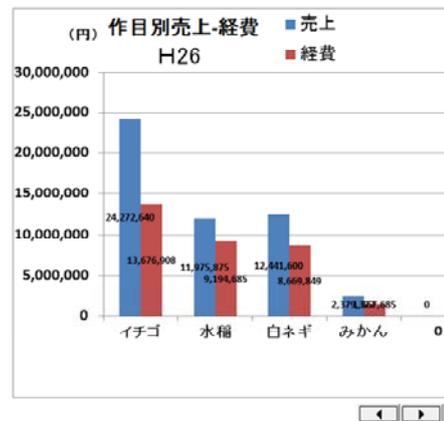


図3 作目別売上、経費の評価 (ステップ2)

シミュレーション

**所得目標試算**

シミュレーション① 白ネギについて

現在の農業所得: 377 万円から 490 万円 (30%増やしたい、(所得113万円増加))

目標の農業所得: 490 万円

この時、販売金額は: 1,244 万円から 1,617 万円にする必要がある。

目標所得の達成には: 規模拡大

面積を: 160 aから 208 aへ拡大する必要がある。

施設・機械の減価償却費は: 134 万円から 175 万円になる。

常雇、臨時雇用の雇用費は: 77 万円から 100 万円になる。

**面積・単収試算**

シミュレーション① 白ネギについて

規模拡大を図る。

現在の面積: 160 aから 176 a

目標の面積: 176 a

10%拡大した時、

所得は: 377 万円から 415 万円になる。

施設・機械の減価償却費は: 134 万円から 148 万円になる。

常雇、臨時雇用の雇用費は: 77 万円から 85 万円になる。

図4 経営試算 (ステップ3)

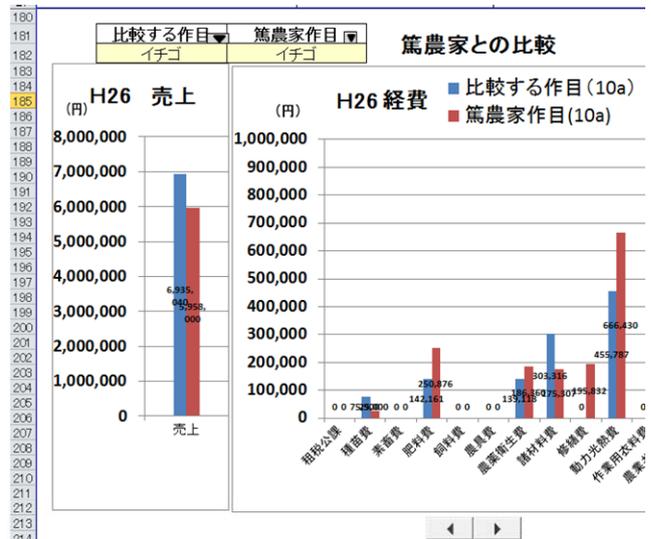


図5 他の農業者との比較 (ステップ4)

[その他]

研究課題名: ビジネス経営体の発展過程の解析による育成支援策の提案

予算区分: 県単

研究期間: 2017~2019年度

研究担当者: 山崎 成浩、長藤 亮彦